

6 焼津水産高等学校実施報告書

1 実施日時 令和5年12月2日(土)11時20分から12時20分まで

2 実施場所 県立焼津水産高等学校 体育館(焼津市焼津5-5-2)

3 実施内容

(1) 講師 長谷川久志氏、一孝氏(長兼丸船長)

(2) 演題 「深海サメの生態と活用」深海サメの解体ショー実演!

(3) 内容 焼津市内の小中学生を対象に、サメの生態と駿河湾の環境について学べるサメの解体ショー及び講話の実施

4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

水産高校の高校生であっても魚が苦手な生徒がいる中で、『さかなのまち「焼津」』に育つ小中学生を対象に、長谷川様の楽しく経験豊富な話を聞くことで少しでも水産業に興味を持ってもらいたいと思い設定しました。また、あまり身近ではない視点の方が興味・関心が惹きやすいと考え、講師には、深海魚を専門に漁獲している長谷川久志氏、一孝氏をお招きすることとしました。

<イベント実施までのプロセス>

5月に全校生徒に対して講師選定のためのアンケートを実施し、その結果を基に講師を決定しましたが、様々な事情により断念することとなりました。その後、改めて講師の選定を行い、9月末に決定しましたが、こちらも断念することとなりました。再度、企画内容等を見直し、10月中旬に講師を長谷川久志氏、一孝氏に決定しました。決定後は、講師の方々とは何度か打ち合わせを重ねました。また、チラシの作成や近隣の小中学校への配布、本校SNSでの案内など、広報活動を行いました。

講師の方々との打ち合わせでは、当日の動線や音響、必要な機材の確認など、入念な意見交換を行いました。そして、開催日直前には、当日の役割や配置決めも行いました。

<イベント当日>

この講演会は本校の小中学生向け学科説明会の後に行われたため、当日の役割は説明会と講演会を兼任してもらった形となりました。本校の生徒会数名に協力してもらい、受付や案内、誘導等の業務を行いました。また、開演直前には改めて講師の方々との最終確認も行いました。本番は本校の生徒会長が司会を務め、講演を進行しました。

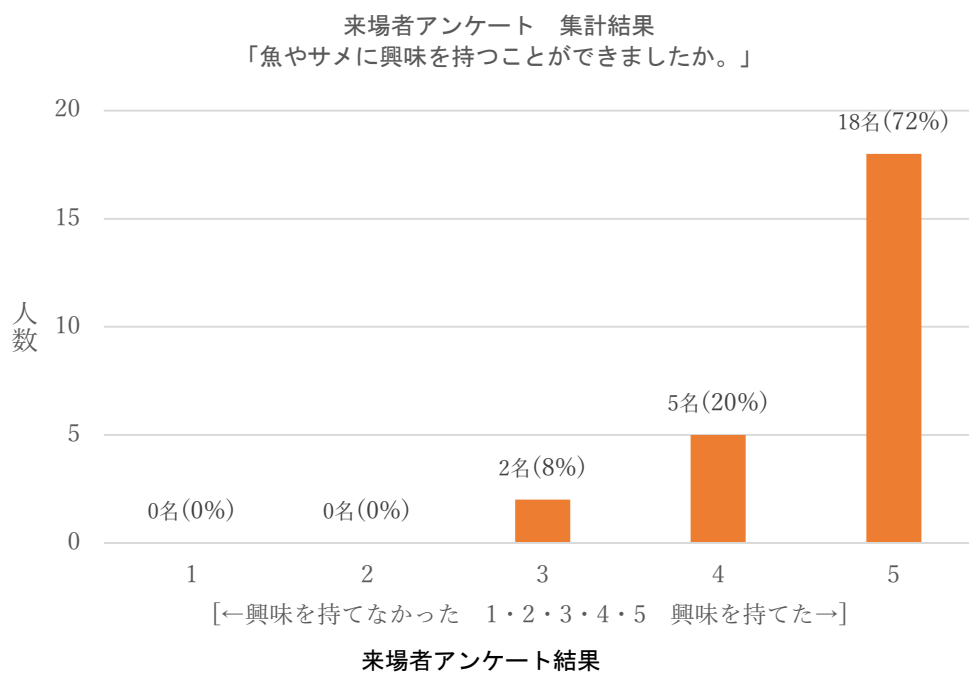


講演会のチラシ

始めに、質疑応答やサメの生態、海の環境についての講話を交えながら約40分間、サメの解体ショーを実演してもらいました。後半には、講師の方々の過去の実績や現在の取り組みについてお話して頂きました。終演後は講演会へのアンケートにアクセスする二次元コードをスクリーンに投影、担当生徒が案内し、回答しやすいように工夫しました。

また、間近でサメに触れたり、講師の方々との交流の場を設けたりしました。当日は、約100名の来場者となり、有意義な講演会を開催することが出来ました。

お越し頂いた方々からのアンケートでは、「面白くて飽きない講演でした。」、「サメの肝臓が大きいことや心臓が小さいこと等様々な知らない事を知れました。」、など、温かい声を多くいただきました。



また、「深海にビニール袋が散乱していることに驚きました。」、「環境問題に一人ひとりが関心を持つ事が大切だと思います。」といった海の資源、環境に関する意見も多くいただきました。



解体ショー中の様子



講話中の様子



担当生徒との集合写真

5 感想・反省

- 普段見ることのできないサメの解体場面を見ることができ、より海洋生物に興味を湧きました。
- 解体場面をスクリーンに映す際に明るさなどの調節に苦労し、きてもらった中学生にあまり楽しんでもらえなかったのではないかと感じました。
- お客さんと同じ高さでの実演であったため、前方に座っている人は比較的に見やすかった一方で後方に座っている人はサメを捌いている様子がカメラの映像含め見えづらかったです。
- 一度に多くのお客さんが来られた際に、案内などをやりきれないことがありました。
- 事前の打ち合わせで照明についてまで考えておらず、明るくないとサメが照らされずにカメラにサメが映らないが、逆に明るいスクリーンへの移りが悪くなってしまったことに当日悩まされました。
- 広報活動等様々なことを直前に行う事となってしまう、お客さんがどれくらい来てくれるのだろうか、あまり来てもらえなかったら講師の方には申し訳ない、という不安でいっぱいだったが、当日は予想以上の方に来ていただき、運営生徒一同とても嬉しく、やりがいを感じられました。